

---

**あめ**

むぎ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あめ

### 【コード】

N6401C

### 【作者名】

むぎ

### 【あらすじ】

ある雨の日、僕は女の子を拾った。

## あの日

「先生！おっはようございます」

ドタドタと階段を駆け上がってきたかと思うと、そいつは、襖を蹴破って部屋に入ってきた。

僕は寝起きが良い方ではない、ましてやこの手の起こされ方は大嫌いだ。

僕は、もそもそと布団へ潜る。

しかし、それはあっさりと遮られた。

「ご飯冷めちゃいますよー」

ニツコリ微笑みながらも、力づくで布団を引き剥がすそいつが見えた。

雨音が聞こえる。

そのまま窓の方へ視線を移すと、ふとあの日のごとがよみがえってきた。

あの日のお雨は、今日より酷かった。

空はどんよりと暗く、今にも雷が鳴りそうな天気。

叩きつけるような雨が、ひっきりなしに降っていた。

雨粒が傘にぶつかる音は、とても耳障りだ。

ポケットの小銭を、右手で触りながら、いそいそとコンビニへ向か

う。

ふと足元に、何か大きなかたまりがあった。初めはゴミかと思ったが、微かに動いているところを見ると、それが生き物だということに気付いた。

一瞬、息が止まりそうになった。

その生き物は、人間だ。

そいつは、大きな瞳をこちらに向け、ゆっくりと顔を上げた。

色白で、黒く艶のある髪。スツと通った鼻。まつげが長く、瞳が大きかった。何より僕は、その瞳が青かったことに驚いた。

しかしやがて、その大きく特徴のある瞳は、静かに閉じ、こっちを向いていた顔は、力無く地面に倒れてしまった。

僕は頭が真っ白になり、考えるより先に体が動いていた。傘を投げ捨て、そいつを抱き抱えて、無我夢中で雨の中を走り出した。ただひたすら。

微かに残る、そいつの体温を感じながら。

## あの日（後書き）

最近の台風接近に伴って、雨をモチーフに小説を書いてみたくなりました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6401c/>

---

あめ

2010年12月8日02時16分発行